



Executive Interview

エグゼクティブ
インタビュー

no.64

このコーナーは神奈川トヨタのお客様である経営者の方にお話を伺うコーナーです。

株式会社 オフィス Moto 代表取締役

湯川 元文 様

国際的な石油化学プラント建設に携わるサラリーマンから、スキーインストラクター、夏山ガイドと自然関係の仕事に転身し、新たに旅館業を手がけようとしている湯川元文氏。歩んできた人生と仕事との関わりを伺いました。

■ ゆかりの地・箱根で始める新事業

——**宿泊施設として活用しようとしている物件は、箱根にあるということですが。**

祖母が住んでいた家で、亡くなった後7年間空き家となっていました。ただ、場所が芦ノ湖近くと便利なので、箱根駅伝の選手の宿舎として提供したりはしています。今年の春、マニラに住む父の知り合いを訪ねた折、家族旅行では宿泊仲介サイトAirbnb(エアビーアンドビー)で一軒家を借りているという話を聞きました。それならば箱根の家を有効に活用できるのではないかと考え、宿泊施設として条件をクリアするために具体的に動き出しました。

——**民泊事業は注目されていますが、手軽に始められるわけではないのですか？**

民泊に関しては各地方自治体ごとに

事情が違います。その中に建築基準法上の面積基準もあります。箱根でも、近所で民泊として営業している家もあると聞いていますが、うちの場合は一定の面積を超えていたので、旅館業として申請を始めました。

——**役所への申請など、煩雑そうですね。**

そこは案外、苦になりません(笑)。石油化学プラントを作っていた会社員時代に、安全のためには法を厳守しなければならぬので、法規関係をクリアしていくのは当然のことでしたから。

来てくれたお客様には、食事を出したかったのですが、厨房には調理者以外の人は入れない、食品衛生管理者を置かなければならないなどの条件があって、宿泊客自身で作ってもらう方式にしました。ただ厨房内には調理用流し台を2つ、想定している宿泊組分揃えているので、共有しなくて済みます。さらに昨年、父が庭

の真ん中に砂利を敷き、バーベキューができるようなスペースを作ったので、そこを利用していただくのもいいかもしれません。知り合いに利用してもらった際には、照明にLEDライトを使っているので「虫が寄って来ない」と。それに「温泉地の箱根でバーベキューが楽しめて意外」と好評でした。

また、お風呂も源泉かけ流しなので、こちらも水質検査などをして、温泉を楽しんでもらえるよう、準備を進めています。

——**お父様が「石湯荘」の管理者になる予定なのですか？**

たぶんそうなると思います。箱根で生まれ育った父は中学卒業後に箱根を離れ東京へ。祖母の弟に当たる大叔父が経営して





モノもサービスも、 会話を重ねて作るもの。 仕事に対する姿勢は今も昔も変わらず。

いた、電力系の製品を作る会社を手伝うことで、通っていた学校の学資援助を得ていました。卒業後、箱根に帰るつもりがそのまま事業を手伝い続けていたので、僕自身も出身は東京ということになりますが、もちろん箱根には愛着があります。もともと家系的に静岡・韮山から箱根に移住し、藩の参勤交代時の宿泊所に携わっていたようで、箱根に根付いてから僕で10代目となるようです。

父は今、82歳ですが、ハロゲンランプに代わってLED照明を工場施設に普及させる事業を手掛けるなど、まだまだ元気。「石湯荘」は今年秋頃のオープンを目指して準備中ですが、当面、川崎の自宅と箱根を行き来するようになるでしょう。

■人と人とのつながりを大切に

——ご自身が大学卒業後、25年も勤めていた石油化学プラント事業から、だいぶ違うスキーインストラクター職に転身した理由は？

47歳の時に体を壊してしまい、「自然の中で好きなことをすれば治るかな？」と考え、社会人になってから打ち込んだスキーを仕事にしてみようと思い立ちました。退職後、ネット検索をして白馬でスキー教師を募集していることを知り、応募したのですが、開口一番「英語はできるか？」と聞かれました。香港、インドネシア、タイ、中国と海外でのプラント建設経験から、英語ができたという理由もあって採用されたのは幸運でした。もともと英語の習得は高校時代の夏休み、旅館

業を営む母の実家で、英文科で学ぶ従姉に教わったことがきっかけでした。これから始める旅館業においても英語が役に立つと思います。

——スキーインストラクター業も、まだまだ続ける予定だとか。

8年の経験を積んでいますが、やはり10年以上キャリアのある方は尊敬できて、僕もそうなりたい。夏山のガイドと併せ、続けていきたいですね。「石湯荘」の始動に向けて、申請業務や業者手配も行っていきます。

——「石湯荘」の名前の由来は？

祖母の名は湯川石。石の字は絶対に入れたいと考えていました。珍しい名前ですが、祖母が三女として生まれた時、すでに姉二人を亡くしていたので、丈夫に育つよう、石と名付けられたようです。早くに夫を亡くし、戦中戦後と苦労したのですが、箱根とあの家をとっても愛していました。そんなこともあって、僕が3年前に個人会社を設立した時、いつか我が



株式会社 オフィスMoto

〒213-0013 神奈川県川崎市高津区末長1-32-17
TEL & FAX : 044-865-2236
<http://www.facebook.com/OfficeMoto/>

石湯荘
神奈川県足柄下郡箱根町箱根314番地

家のルーツである旅館業もやってみたいという気持ちもあり、事業目的の一つに旅館業を入れておきました。

——これからの抱負は？

長くやってきた石油化学プラント建設はモノ中心で、転職してからはサービス業という、一見、正反対の仕事に携わっています。けれども、僕は昔から人の話を聞くのが好きで、そこから生まれるのが、モノなのか、それとも形のない思い出や経験なのかの違いだけで、本質は変わらないと考えています。プラント建設も好きでしたが、自然の中で人と触れ合う今の仕事も大好きです。これからも、人と人とのつながりを大切にし、思うところを実現していきたいと思っています。



箱根駅伝の往路ゴール・芦ノ湖近くに佇む一軒家。1階と2階に和室が1室ずつと、2組の宿泊が可能。多目的に使える30畳のリビングルームや源泉かけ流しの温泉が楽しめます。

<インタビューを終えて>

柔らかな語り口と率直さで、関係する人すべてに愛情のある優しい人柄を感じました。気遣いがありつつも、自身の好みや方針ははっきりしていて、何かを作り出す人なのだなと実感しました。お父様の元久さんは、昭和の仕事人間と自称されていましたが、その熱量と行動力は、確実に次世代へと受け継がれているようです。多芸多才の家系らしく、代々家主が気を配り、育んだ、石湯荘の庭は訪れる人の目を楽しませてくれるはずですよ。